おかやまコープ。
暮らしをつくる Vol②

岡山県は医療支援、子どもの人権擁護など多彩な国際貢献活動の拠点となっており、この運営を継続的に支えてきたのが県民や地元企業の揺るぎないボランティア精神だった。こうした全体像を踏まえながら、岡山の国際貢献の現状とその底流にある精神風土、企業などとの連携による成果や展望について、日本ユニセフ協会岡山県支部の吉永紀明代表（おかやまコープ常任顧問）、国際医療支援ボランティアAMDAボランティアセンターの小池彰和センター長、おかやまコープの三宅正勝有識者理事（岡山ユネスコ協会会長）の三氏が意見を交わした。

「国際貢献」～おもいやり 地球市民のパスポート

独特の精神風土

三宅　岡山県には国際NGO団体が現在百十九団体あります。こんなに多いのは非常に珍しいのですが、国際貢献活動が盛んな理由としては、岡山県独特の精神風土がよくあげられます。

主には、教育県であること▽芸術文化を尊重する精神▽福祉を重視する考え方▽高いレベルの医療教育▽宗教への信仰心があついこと―などです。また、岡山県は国際貢献活動の推進条例を全国にさきがけてつくっています。

私どものNGO（岡山ユネスコ協会）は姉妹校縁組に取り組み、これまでに二十組成立させてきました。姉妹校になると国際交流への道は早いんですね。私は「おもいやり　地球市民のパスポート」という言葉を提唱していますが、国際貢献には何より思いやりの心を持つことが大事だと思うんです。家庭愛から、地域愛、国への愛、つまり愛国心につながっていくんですが、それに加え、グローバルな視点で「宇宙船地球号」の乗組員のひとりであるという意識も持たなければいけないということです。

そのための第一段階が国際理解です。まず勉強し、現状を理解する。分かったら第二段階の交流へ移ります。交流するうちにさまざまな問題が分かり、自分にできることがあれば第三段階の協力・支援という動きが生まれる。隣人に不幸があったら手を差し伸べるのは人間として当たり前の行為ですが、こういう意識を持つ人たちが集まって国際貢献活動となるんです。

募金活動通じ〝きずな〟

吉永　私は今年五月に日本ユニセフ協会岡山県支部代表となりました。三年前までおかやまコープの理事長をしていましたので、ユニセフの活動をコープの側とユニセフの側の両面から見ています。

国連児童基金（ユニセフ）は開発途上国を含む百五十の国と地域で子どもたちの栄養、健康、教育などの社会事業を行っています。資金の75％が各国からの拠出金で、残り25％が民間からの募金となっており、おかやまコープからの募金も最終的には国連児童基金へ集められています。

日本ユニセフ協会岡山県支部は一九八八年、全国十九の道府県にある支部の中では全国で三番目につくられました。私の前に代表だった福武れい子さんのお父さんが県支部設立を提唱しましたが、そのとき日本ユニセフ協会の専務理事をしていたのが橋本龍太郎さんのお母さんの正さんだったんです。そういうかかわりを見ても、三宅さんのおっしゃった国際貢献の精神風土が、やはり岡山にあるんだなと思いますね。

小池　岡山の精神風土について、AMDAグループ代表の菅波は「岡山は、弱者が存亡の危機に立ったときに立つ」と言っています。「岡山は二度燃えた」とも言っているんですが、ひとつは一九四五（昭和二十）年の岡山空襲。次が阪神淡路大震災です。一度目は物理的に燃えたんですが、二度目のときは隣の県が大被害を受けたというので、精神的に燃えたんですね。AMDAも一カ月にわたり支援しました。その延長で海外での支援活動もあります。救援活動の基幹にあるのが「困った時はお互いさま」という相互扶助の気持ちなんです。

AMDAは国連経済社会理事会の総合協議資格を持っておりますが、「ソウゴフジョ（相互扶助）」という言葉をそのまま使ってその精神を伝えようとしています。

AMDAは一九八四年に創立し、実際の活動に入ったのは九〇年代からです。今日までの海外緊急救援活動数は四十七カ国、百八回に上ります。九月十日現在やっているのはネパールとインドの洪水被害者の支援です。八月十八日に災害が発生したと思いますが、AMDAはネパール支部の先生から要請を受けて二十一日から活動を開始し、必要な物資、資金など後方支援を提供しています。

おかやまコープとの連携

三宅　コープへかかわらせていただいて強く感じるのは貢献マインドが非常に高い団体だということです。だからAMDAと協定を結んだりユニセフとも長年協力したりしているんだろうと思います。ユネスコとしてもおかやまコープとのさらなる連携を期待しています。

ユネスコは、平和の文化を根付かせなければいけないと呼び掛けております。戦争は人の心の中に起きるものであるから、人の心の中に平和の砦を築かなければならない。その平和を構築するためには、コープのような組織が少しずつでも増えていくことが大事ではないかと思います。

吉永　コープは、安全・安心な商品を手に入れるために母親たちが手をたずさえてつくった組織です。ユニセフも子どもだけでなく母親の自立や意識改革に取り組み、共助という考え方があります。ここがコープとユニセフの共通するところであり、ユニセフ活動を通じて強いきずなを結んでこられた理由だろうと思います。

コープが世界の子どもたちのための取り組みを始めたのは一九七九年、ICA（国際協同組合同盟）が提唱するバケツ一杯の水を送る運動に参加したのが最初です。ユニセフ活動への取り組みは、八四年に日本生協連が呼び掛け、各地のコープで始まりました。それ以降、毎年二～四億円の募金を全国のコープが集めており、八四年からこれまでの募金額は全国で六十億円を超えています。

おかやまコープではこうした全国の取り組みと歩調を合わせて八四年からユニセフ活動に取り組んでいます。ユニセフとコープが合同で行ったスタディーツアーでは四人の組合員が参加しています。おかやまコープの六つの地域ではそれぞれ学習会、チャリティーコンサート、ハンド・イン・ハンド募金活動などを進めています。ラオスの女の子と女性の立場の向上プロジェクトに対しては、おかやまコープも募金の中から百五十万円を拠出しました。こうして一九八七年から二〇〇七年までにおかやまコープだけで総額一億二千六百万円の募金を集め、ユニセフに送っています。

日本ユニセフ協会岡山県支部には現在三十人の運営委員がいますが、おかやまコープは設立時からずっと運営委員として参加しています。

困った時はお互いさま

小池　おかやまコープとAMDAは去年十月、緊急救援に対する協定を交わしました。その前からの寄付も含めてこれまでに七回、合計三百三十万円の寄付をいただいております。去年では六月のパキスタン南部サイクロンをはじめ新潟中越沖地震、ペルー沖地震、バングラディシュサイクロンなど計五件。今年に入ってからは、ブータン難民キャンプ、ミャンマーサイクロン、四川大地震と続いています。

AMDAは百パーセント寄付や援助によって活動していますが、コープもひとつの団体としてみれば、一番（支援の）すそ野が広い団体じゃないかと思うんです。それだけ多くの方に支えられた団体からAMDAに支援をいただけるというのは、喜びであると同時に強みかもしれません。AMDAは世界中の方に支えていただいていますが、何といっても岡山の支えが一番大きいんです。

これからの国際協力

小池　国際協力とは困った人を助けることだと理解している人もいますが、それでは五割しか当たっていないと思うんです。なぜなら助けられることもあるからです。私は戦前、戦後を経験しました。戦後ユニセフから援助を受けたたからユニセフから援助を受けた粉ミルクやパンを食べていたでしょうし、ララ物資などほかにも国際的な援助がたくさんありました。こうした援助を受けてわれわれは日本を立ち上げてきた、ということを私は忘れることができないんです。今度は逆に助ける番がきた。そしてまたいつか助けてもらうときもくるかもしれない、というのが国際協力というものだと思います。

二〇〇五年に国連経済社会理事会のボランティア委員会に菅波が呼ばれたとき、アジアの国際協力の基本はチャリティーではなくフレンドシップだと説明しました。苦楽を分け合い、気持ちを通じあって問題解決していく関係だと。ただしフレンドシップは問題が出てくるとこわれやすい。こうした問題を乗り越えたら、フレンドシップはパートナーシップという（より強い）関係に変わるんだと言いました。困難にぶつかったとき、この人は逃げないんだという気持ちを相手に持たせれば、そこに信頼の念が生まれます。また問題解決の中でお互いの知らない能力が見えて尊敬の念も生まれます。国際協力とは、この信頼と尊敬がなければお互いに成り立たないんだということを話したんだそうです。これは国際協力のあるべき姿を示唆していると思います。

平和な社会求めて活動

三宅　今後の国際貢献活動においておかやまコープに望むことがあるとすれば、他の団体との連携をもっと増やしていただきたい。特に非常に小さな人数で国際貢献しているグループにも、何らかの形で援助してあげるようしていただけるとありがたいと思います。

吉永　児童労働やストリートチルドレンなど子どもたちの置かれている状況は社会の反映です。ユニセフ活動はそういう結果に対応しているんですが、私は併せて、根本である平和な社会を求めていく活動が大事だと思っています。

一方、コープの社会的貢献活動でも国際貢献については「平和な世界と子どもたちの幸福への貢献」という柱を立てています。平和な社会でなければ子どもの安心・安全は生まれないんだという基本の部分でユニセフはコープと手を携えて、頑張っていきたいと思います。

（財）日本ユニセフ協会岡山県支部代表
吉永 紀明氏

よしなが・のりあき　1965年、北海道酪農学園大卒。同年、日本生活協同組合連合会入協。92年、生活協同組合おかやまコープに移籍。95年、同理事長。2006年から同常任顧問。2008年から現職。

AMDAボランティアセンター長
小池 彰和氏

こいけ・あきかず　1953年、東京外国語大中国語科卒。同年、石川島重工業（現IHI）に入社、船舶の輸出営業に従事。香港、北京などに駐在。97年、AMDAに入り、総務局長などを経て2008年から現職。

おかやまコープ 有識者理事
三宅 正勝氏

みやけ・まさかつ　1956年、岡山大教育学部卒。就実短大教授、岡山県国際団体協議会理事長、日本ユネスコ国内委員会委員などを経て、94年から岡山ユネスコ協会会長。2000年から現職。

企画・制作／山陽新聞社広告局

岡山から世界へ、支援の輪が広がる

AMDA 募金活動
10月は「おかやまコープAMDA募金月間」
〈募金取り組み期間：10月1日～31日〉
募金袋・商品注文書・店舗募金箱で実施しています。

AMDAとおかやまコープの協定式（07年10月）

アフリカへ　アジアへ　南米へ

unicef 募金活動
ユニセフ ハンド・イン・ハンド（12月）
ユニセフ おかやまコープお年玉募金（1～2月）

※国際児童年の1979年12月31日に、「子どもたちのために手をつなごう」という呼びかけではじまりました。「手に手をとって」世界の子どもたちの幸せと明るい未来を実現するために、市民一人ひとりがボランティアとして参加するユニセフ募金活動です。毎年12月はハンド・イン・ハンド月間として全国各地のボランティアが学校や職場、家庭での募金、街頭募金など、さまざまな方法で参加しています。

おかやまコープ ハンド・イン・ハンド（07年12月）

生活協同組合おかやまコープ
インフォメーションセンター　0120-662-538　http://okayama.coop/